

1、作業前の下地について

ロデムシリーズ(紛体タイプ)を塗布する範囲については**十分に洗浄**してください。

(埃等の汚れの付着はコンクリートの**付着強度に大きく影響**します。範囲によって高水圧洗浄又はデッキブラシ等により十分に洗浄し、汚れ等を流して下さい。)

塗布前に十分コンクリートに**水を与え湿潤**して下さい。

※湿潤後、**湯きかけ程度**で塗布して下さい。(水垂れしない程度で塗布して下さい。)

※気温が高い日に塗布部分が乾いた場合はスプレー等により**湿潤し**、その後塗布して下さい。

(乾いて水分が無い状態で塗布しますとドライアウトする場合があります。)

コンクリートのジャンカー及び水疱には予めモルタルやロデムベーシック等で埋めて平滑にして下さい。

防水(樹脂)モルタル及び樹脂系の材料には**含侵しません**。

2、練り混ぜについて

ロデムシリーズ(紛体タイプ)は下記水分量を守って十分に攪排し、**(25%~30%程度)**で水和反応を起こすよう、しっかりと**3分以上**練り上げてから塗布して下さい。

※最初は固めから**少量ずつ水を加え**塗布時に適切な硬さになるようにして下さい。

土間、壁、天井等により硬さの調整が必要となりますので塗る人の感覚によります。

※温度の高い万能ガンにて吹付する場合は**水分比40%程度**で練り上げ、その後**僅かずつ水を加えて**吹付が可能な粘度に調整して下さい。一旦練り上げた材料についても**僅かずつ水を加え**調整する事も可能です。

※夏場等気温の高い日は練り上げ途中からでも硬化を始める場合もあります。その場合も上記と同じように**僅かずつ水を加え**緩めて下さい。

ロデムシリーズ(紛体タイプ):**1㎡あたり使用量(1.5kg、1mm厚)に対し375~460cc**の水でご使用下さい。

多少前後しても大丈夫です。(水分比は約**25%~30%程度**)

上記数字は**あくまでも目安**です。一旦少し硬めに練り、それから軟らかくすることが大事です。

3、作業時の環境について

ロデムシリーズ(紛体タイプ)は初期反応段階で凍結すると剥がれる可能性が高くなります。

※外気温が**5℃以下**となり、夜間に凍結が考えられる様な時は施工を避けて下さい。

※**雨天**の場合は室外の作業は避けて下さい。(内側の壁からの作業は可能です。)

また、夏場は約3時間以上経過すると雨の影響を受けませんが冬場は乾燥が遅くなりますので最低**1日以上**、

雨の降らない日を選んで施工して下さい。

(上記二つの状況の中お勧めは出来ませんが、シート等の養生の徹底や温風を与える機器等を使用する。)

最初の塗り付けの際は鏝に角度をつけてしっかりと**こすりつけ**、その後厚みをつけて下さい。

ロデムシリーズ(紛体タイプ)につきましては、薄塗時(1~2mm厚程度)の場合は**二度塗り厳禁(一発仕上げ材)**となります。

厚塗り及び補修の際は材料を**固め**に練り上げ、**薄塗時と同様に**最初はしっかりとこすりつけ、その後厚みをつけ、櫛目鏝で**櫛目をつけ(接着面積を増やすため)**、表層が**少し乾いてきた程度**で再度、同工程を数回繰り返し、最後に仕上げして下さい。尚、この際は**湿潤不要**です。(細部は弊社HPの**施工要領動画**をご確認下さい。)

4、施工後の養生期間について

※ビルの屋上等については**夏場の場合は4時間程度**で軽歩行可能、**冬場は2日以上**。

※屋内水槽については内部から塗布した場合、**3日程度**で水貼り可能。

外部から塗布した場合、**5日程度**で水貼り可能。

※駐車場等は**ロデムファイバー**にて塗布し、夏場は**24時間後**を目安に車両乗り入れ可能。

※面積が広いコンクリートの土間等の場合

繊維入りタイプのロデムファイバーを使用する、または伸縮目地を作ることを推奨します。

炎天下での使用や屋外など急激な乾燥が懸念される場合はシートを被せる等、状況により一般的な養生も検討して下さい。

5.地下ピット等の止水について

出てくる水の量(水圧)によって違いはありますが、壁面等のクラックより漏水している場合、**染み出る**ほどの量であればロデムレギュラーによる**粉体止水**をお勧めします。

また、水圧が高く、量が多い場合は出来るだけ水量の多い部分にドリルで穴をあけ、ホース等で水の**逃げ道を作り**、それ以外のクラック部分に粉体を摺り込みながら押し当てて行きます。クラックの水が止まってくるのを確認したら最後にホースを抜き取り、**木栓**を穴に打ち込み、その上から粉体で押しつけて固めるのが適切だと思います。

※ピットの打ち継ぎ部からの浸水の場合(EVピット等)

土間コンと壁面の間の止水については、その**底部と壁の立ち上がり部分**に粉体を押し付けながら止水して下さい。

勿論、湧き出る水の量と粉体は比例します。止まるまで押し当てて下さい。

尚、紛体タイプ、リキッドタイプともに下地となる躯体が正しい施工方法に基づいて施工されていない場合は本来の性能は発揮されません。施工方法及び商品についてご不明な点が少しでもございましたら、弊社までお問い合わせを頂きますようお願い致します。また、弊社ホームページに**施工要領動画**を掲載しておりますのでこちらも併せてご確認頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。